令和３年 ７月１日	農作物病害虫発生予報 ７月	山口県病害虫防除所 山口県農林総合技術ｾﾝﾀｰ

～目　次～

Ⅰ　予報の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
Ⅱ　予報
【主要病害虫】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
【その他の病害虫】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４
Ⅲ　参考（予報の見方、気象予報）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

Ⅰ　予報の概要

農作物名	病害虫名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
イネ	いもち病（葉いもち）	平年並	平年並	前年並
	紋枯病	平年並	－	－
	ヒメトビウンカ（縞葉枯病）	平年並	平年並	前年並
	セジロウンカ	やや少	少	少
	トビイロウンカ	平年並	平年並	前年並
	コブノメイガ	平年並	平年並	前年並
	斑点米カメムシ類	平年並	平年並	前年並
カンキツ	かいよう病	平年並	平年並	前年並
	黒点病	平年並	前年並	前年並
	ミカンハダニ	平年並	平年並	前年並
	ミカンサビダニ	平年並	平年並	前年並
ナシ	黒斑病	少	少	少
	黒星病	**多**	**多**	**多**
果樹全般（モモ、ナシ、リンゴ）	カメムシ類（ﾁｬﾊﾞﾈｱｵｶﾒﾑｼ、ﾂﾔｱｵｶﾒﾑｼ、ｸｻｷﾞｶﾒﾑｼ）	やや少	やや少	少

お問い合わせ先
TEL（０８３）９２７－４００６
FAX（０８３）９２７－０２１４
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

Ⅱ　予報

【主要病害虫】

イ　ネ

1　いもち病（葉いもち）

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病初期

(2)　予報の根拠

ア　本田での初発生は、６月14日（平年初発生６月26日）で早かった（＋）。

イ　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年0.4%）、発病株率0%（平年0.0%）で平年並みであった（±）。

ウ　気象予報では、７月の気温、降水量、日照時間はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

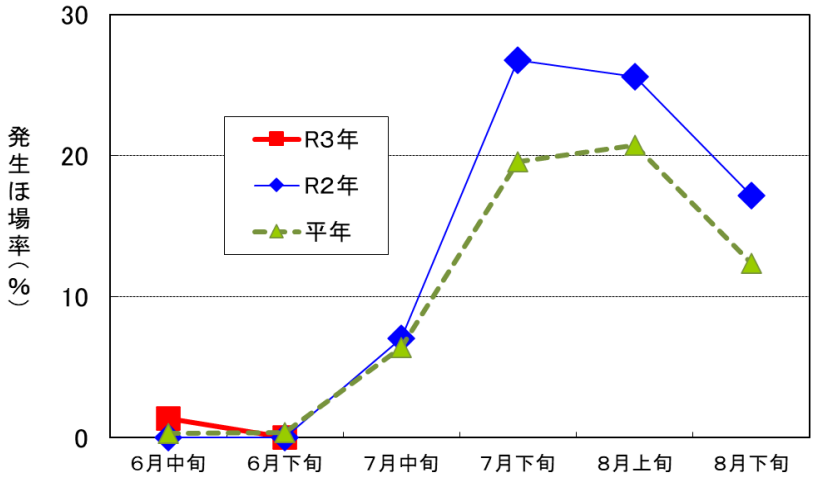
＜耕種的防除＞

ア　補植用の置苗は、早急に処分する。

イ　窒素肥料の多用は避ける。

＜防除判断＞

急性型病斑を認めた場合は、治療効果のある薬剤で直ちに防除する。



葉いもち　発生ほ場率の推移

2　紋枯病

(1)　予報内容

予想発生量	防除時期・防除の目安
平年並	幼穂形成期～穂ばらみ中期（出穂25～14日前頃）

(2)　予報の根拠

前年の発生量は平年並みであり、伝染源となる菌核の量も平年並みと考えられる（±）。

イ　気象予報では、７月の気温、降水量および日照時間はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除＞

窒素肥料の多用は避ける。

＜防除判断＞

防除適期は幼穂形成期～穂ばらみ中期（出穂25～14日前頃）で、穂ばらみ中期の発病株率15～20％以上が防除の目安である。

＜防除のポイント＞

出穂期以降は薬剤散布の効果が劣るので、適期防除を徹底する。

3　ヒメトビウンカ（縞葉枯病）

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	幼穂形成期までに発病が多い場合

(2)　予報の根拠

ア　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率8.3％(平年8.8％)、10株当たり虫数0.1頭(平年0.3頭)で平年並みであった（±）。

イ　これまでの調査では、縞葉枯病の発生は確認されていない（－）。

ウ　気象予報では、７月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

幼穂形成期までに発病が多い場合はウンカ類に効果のある薬剤で直ちに防除する。

＜防除のポイント＞

今後の発生予察情報に注意する。

4　セジロウンカ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
やや少	少	少	７月中旬までは10頭以上/株（成虫）、その後穂ばらみ中期までは50頭以上/株（成幼虫）

(2)　予報の根拠

ア　初確認は、５月17日（平年６月６日）で平年に比べやや早かった（＋）。

イ　予察灯における誘殺数（４か所、5月29日～6月28日合計）は、０頭（平年46.4頭）で平年に比べ少なかった（－）。

ウ　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率０％（平年15.6％）、10株当たり虫数０頭（平年0.5頭）で平年に比べ少なかった（－）。

エ　気象予報では、７月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

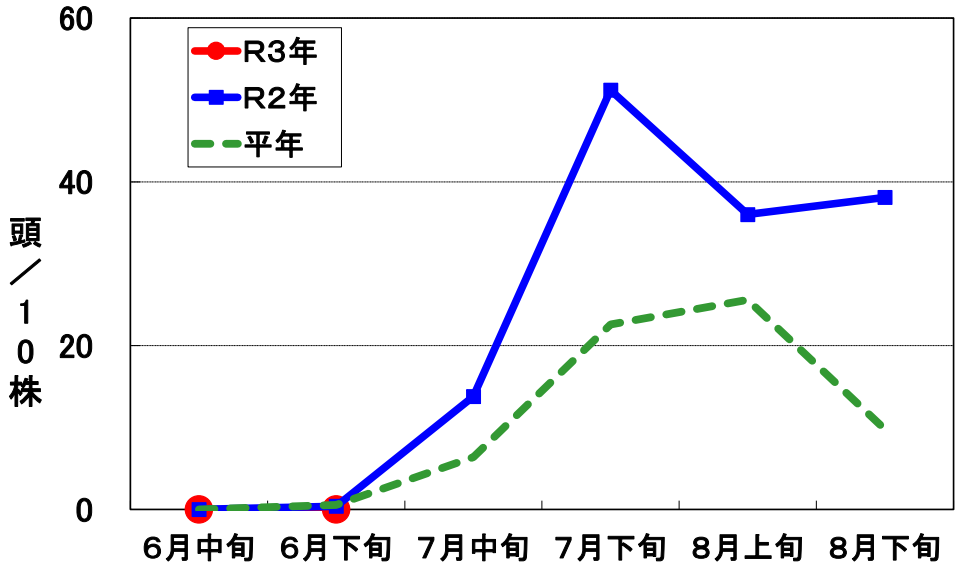
ア　防除の目安は、飛来がみられる７月中旬頃までは成虫で株当たり10頭以上である。

イ　穂ばらみ中期（出穂14日前頃）までに成虫、幼虫を含めて株当たり50頭以上の発生があれば、褐変穂を生じる恐れがあるので薬剤防除を行う。

＜防除のポイント＞

ア　今後、梅雨明けまで多飛来する可能性があるため、ほ場での発生や発生予察情報に注意する。

イ　飼料用米では多発する場合があるので注意する。



セジロウンカの発生推移

5　トビイロウンカ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	７月中旬までは10頭／100株(成虫)、７月下旬～８月上旬は20頭／100株（成幼虫）以上

(2)　予報の根拠

ア　６月30日現在、確認されていない（平年初確認７月10日）（±）。

イ　予察灯における誘殺数（４か所、５月29日～６月28日合計）は、０頭（平年0.1頭）で平年並みであった（±）。

ウ　６月下旬の巡回調査では、発生が確認されていない（±）。

エ　気象予報では、７月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

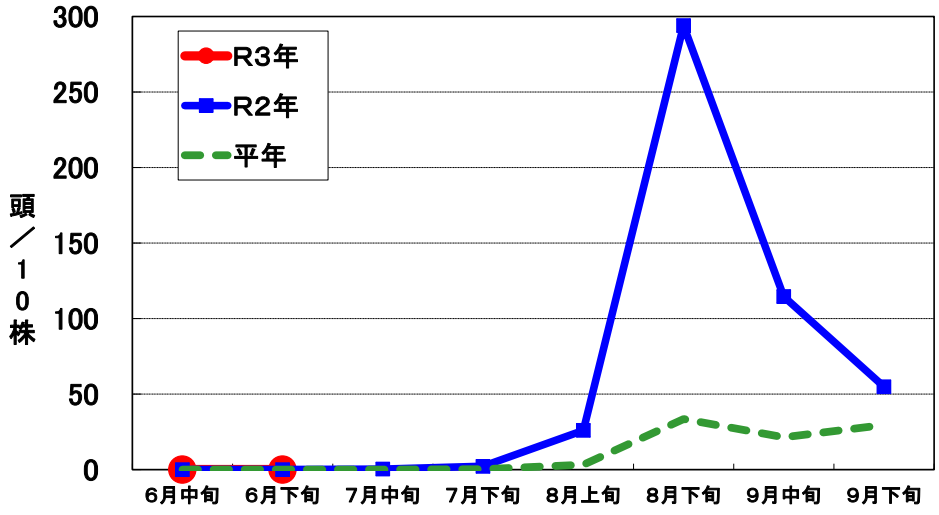
＜防除判断＞

ア　防除の目安は、６月下旬～７月中旬（飛来時）は10頭／100株、７月下旬～８月上旬（成幼虫）は20頭／100株以上である。

＜防除のポイント＞

ア　今後、梅雨明けまで多飛来する可能性があるため、ほ場での発生や発生予察情報に注意する。

イ　出穂後は薬剤が株元にかかりにくいため、出穂前防除を徹底する。



トビイロウンカの発生推移

6　コブノメイガ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	成虫の払い出しで５頭／㎡以上

(2)　予報の根拠

ア　６月30日現在、確認されていない（平年初確認７月１日）（－）。

イ　山口市のフェロモントラップによる誘殺数（６月６日～30日）は、０頭(平年1.8)で平年並みであった（±）。

ウ　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は０％（平年0.1％）、被害株率は０％（平年0.0％）で平年並みであった（±）。

エ　気象予報では、７月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除＞

葉色の濃いイネに好んで産卵するため多肥を避ける。

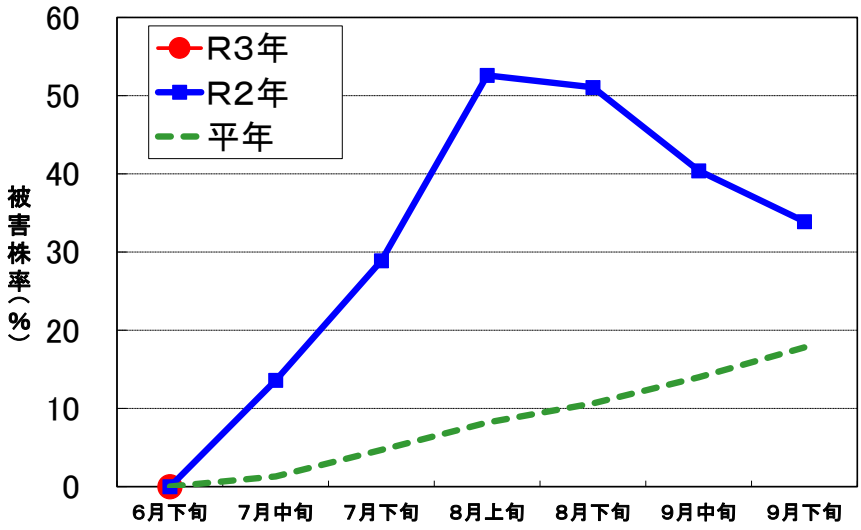
＜防除判断＞

ア　成虫の払い出し調査で５頭／㎡以上であれば粉剤は７日後に、粒剤は直ちに散布する。

イ　減収が問題となるのは、出穂期に上位２葉の被害葉率が15％（株率80％程度に相当）以上とされている。

＜防除のポイント＞

今後、梅雨明けまで多飛来する可能性があるため、ほ場での発生や発生予察情報に注意する。



コブノメイガによる被害株の発生推移

７　斑点米カメムシ類

７月10日～７月18日は県内一斉草刈り推進期間

(https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/gijyutusiryou.html)

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	穂揃期と穂揃期７日後の２回防除が基本 (粉剤または液剤の場合)

(2)　予報の根拠

ア　予察灯における誘殺数(4か所、5月26日～6月25日合計）は、イネカメムシは1頭（平年0.1頭）で平年に比べ多く、クモヘリカメムシは3頭（平年2.7頭）で平年に比べやや多く、アカスジカスミカメは70頭（平年163.7頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメは44頭（平年42.5頭)、ミナミアオカメムシは0頭（平年2.6頭）、アオクサカメムシは１頭（平年0.9頭）で平年並みであった（±)。

イ　極早期栽培地域におけるイネ科雑草地の１か所あたり20回すくい取り調査ではアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、ヒョウタンナガカメ類等が確認され、平年並みの発生であった（±）。

ウ　気象予報では、７月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜耕種的防除＞

出穂２週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、それ以後は、エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等のイネ科雑草の穂がでないよう管理するとより効果が高い。

＜防除のポイント＞

ア　穂揃期（80～90％が出穂）と穂揃期７日後の２回の薬剤防除を徹底する。

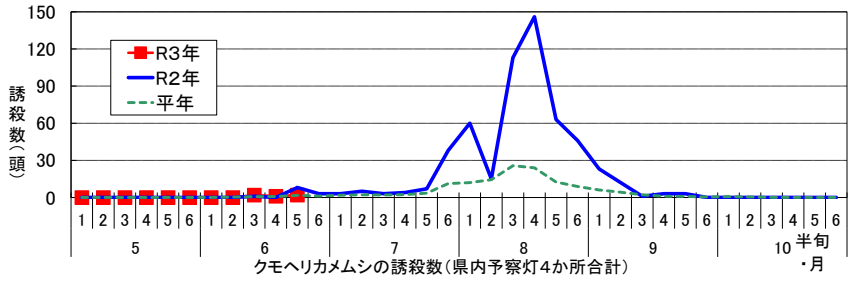
イ　薬剤を散布した後もほ場でカメムシ類の発生が見られる場合は、さらに７日後に追加防除を実施する。

ウ　周囲よりも出穂の早いほ場、休耕地や雑草地周辺のほ場、ヒエ等の雑草の多いほ場はカメムシ類による被害が多くなるので防除を徹底する。

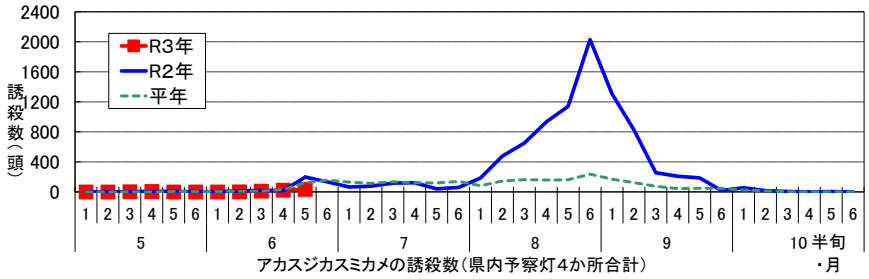
エ　地域で一斉防除を実施すると効果が高い。

オ　畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は畦畔も含めて防除を実施する。

カ　粒剤で防除を行う場合は、粉剤よりも３～４日早く散布する。ただし、大型のカメムシ類に対しては防除効果が劣る。



クモヘリカメムシ
体長15－17mm



アカスジカスミカメ
体長4.6－6mm

カンキツ

1　かいよう病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	幼果期及び台風の来襲前

(2)　予報の根拠

ア　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5％(平年9.0％)、発病葉率0.1％(平年0.8％)、発病果率0.2％(平年0.0％)で平年並みであった（±）。

イ　気象予報では、７月の降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

ア　本病が発生しているが、６月下旬に防除を実施していない場合は、７月上旬に防除を実施する。

イ　本病が発生し、既に６月下旬の防除を実施した場合は、新たな病斑の増加が認められる場合に防除を実施する。

ウ　台風来襲の恐れがある場合は、事前に防除を実施する。

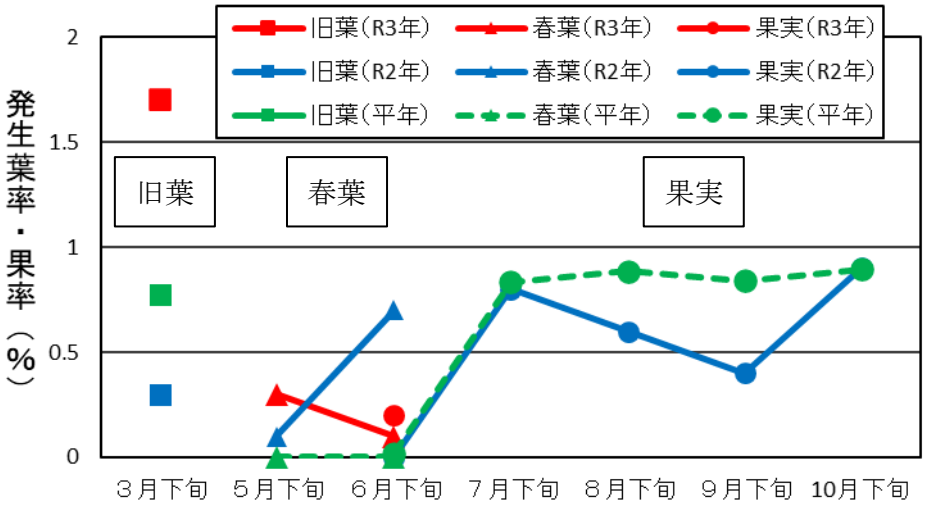
＜防除のポイント＞

ア　発病した枝や葉は、伝染源となるので除去する。

イ　防風樹や防風ネットなどの防風対策を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。

ウ　ＩＣボルドー66Ｄは、高温期に使用すると薬害を生じやすいので、７月から９月の間は使用しない。

エ　夏秋梢はミカンハモグリガの被害が発生しやすく、本病の発生を助長するので、できるだけ除去する。幼木や隔年交互結実園の遊休樹など夏秋梢を残す場合は、ミカンハモグリガの防除を徹底する。



カンキツかいよう病の発生推移

２　黒点病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	防除後の累積降水量が200～250㎜に達したとき。降水量が少ない場合は薬剤散布後１か月を経過したとき。

(2)　予報の根拠

ア　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.8%(平年32.5%)、発病果率0.4%(平年2.4%)で平年並みであった（±）。

イ　気象予報では、７月の降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

予防散布が基本なので、予報内容の防除時期に合わせて防除を実施する。

＜防除のポイント＞

ア　樹冠内の枯れ枝や放置された剪定枝は本病の伝染源となるので、園外に持ち出し、処分する。

イ　「せとみ」は病斑が大きくなり、外観品質に及ぼす影響が大きいため、適期防除に努める。

3　ミカンハダニ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	雌成虫の寄生葉率30～40%以上、または雌成虫１葉当たり0.5～1頭以上

(2)　予報の根拠

ア　下旬の巡回調査では、発生ほ場率36.8%(平年25.0%)、寄生葉率3.9%(平年3.4%)で平年並みであった（±）。

イ　気象予報では、７月の気温、降水量ともほぼ平年並み（±）。

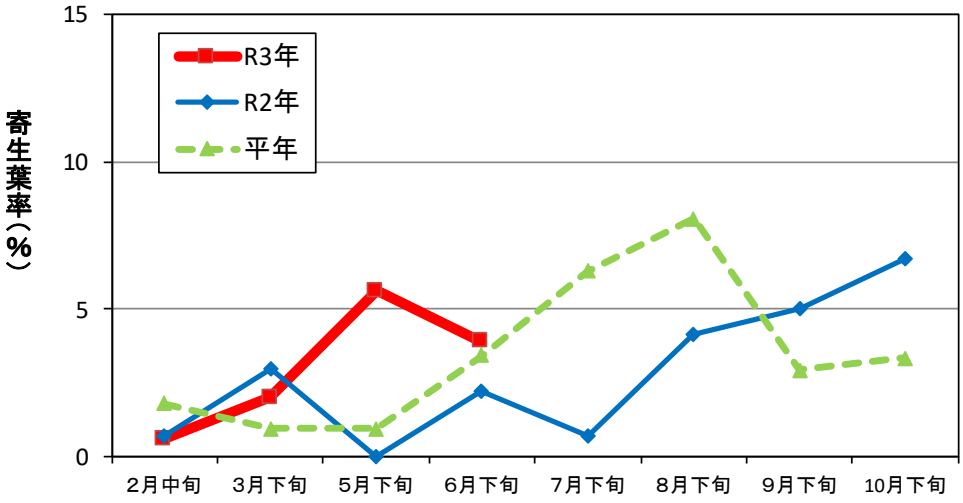
(3)　防除対策

＜防除判断＞

雌成虫の寄生葉率30～40%以上、または雌成虫１葉当たり0.5～1頭以上の場合、防除を実施する。

＜防除のポイント＞

発生量はほ場によって大きく異なる。定期的にほ場を見回り、発生状況を確認する。



ミカンハダニ寄生葉率の推移

4　ミカンサビダニ

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	常発園または昨年多発した園では直ちに、それ以外の園では梅雨明け直後

(2)　予報の根拠

ア　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率０％(平年０％)、被害果率０％(平年０％)で平年並みであった（±）。

イ　気象予報では、７月の気温、降水量ともほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

前年の発生量が大きな影響を与えるため、常発園または昨年多発した園では早めの防除が必要。それ以外の園では梅雨明け直後に薬剤散布を行う。

＜防除のポイント＞

効果の高い薬剤（サンマイト水和剤、ダニカット乳剤、コテツフロアブル等）を使用する。薬剤抵抗性の発達を防止するため、同系統薬剤の連用は避ける。

ナ　シ

1　黒斑病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
少	少	少	7～10日間隔で防除を行う。

(2)　予報の根拠

ア　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率０％(平年31.5%)、発病葉率０％（平年0.1%）、発病新梢率０％(平年1.3%)で、平年に比べ少なかった（－）。

イ　気象予報では、７月の降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除のポイント＞

ア　ほ場を定期的に見回り、落下した果実は拾い集め、園外に持ち出し処分する。

イ　７月は、徒長枝での発病が多くなる時期なので、徒長枝の先端まで薬剤がかかるよう、丁寧に散布する。

ウ　ポリオキシン剤、ストロビー剤では耐性菌が出現しているため、防除の後必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は、他の薬剤を使用する。

2　黒星病

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
多	多	多	７月上旬ごろまで

(2)　予報の根拠

ア　６月下旬の巡回調査では、発生ほ場率33.3%(平年12.7%)、発病葉率1.7%(平年0.4%)で平年に比べ多かった（＋）。

イ　気象予報では、７月の降水量はほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

平年に比べ発生が早く、発生量が多く推移していることから、下記の「防除のポイント」を参考に、防除を徹底する。

＜防除のポイント＞

ア　発病した果実や葉は伝染源になるので、見つけ次第除去するとともに、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。

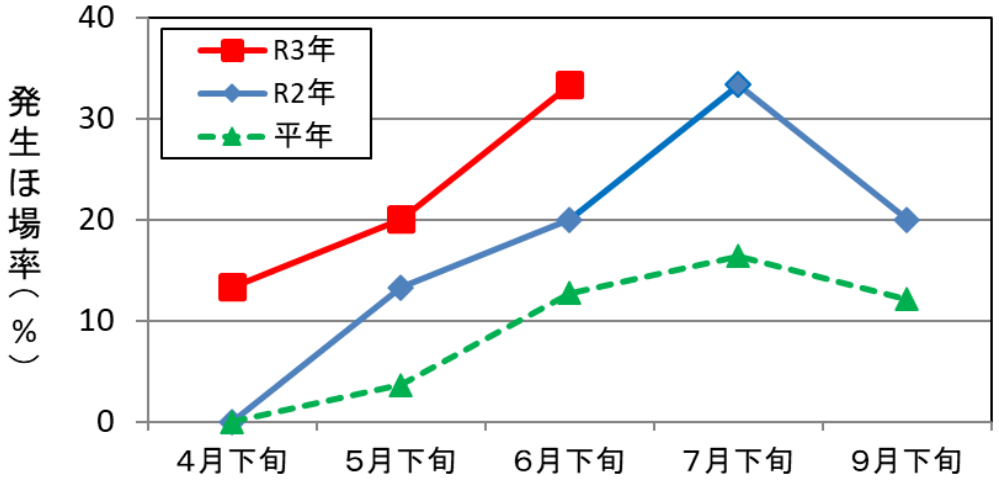
イ　本病が発生している場合は、治療効果があるストロビルリン剤（ストロビー、アミスター等）、アミド系剤（フルーツセイバー、アフェット等）で直ちに防除を実施する。

ウ　７月は、本病原菌が「幸水」の果実に感染しやすくなる時期なので、防除を徹底する。

エ　薬剤が果実と新梢にかかるよう、丁寧に散布する。

オ　薬剤耐性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

カ　ベンレート剤、ルビゲン剤では耐性菌が出現しているので、防除の後必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は、他剤を使用する。



ナシ黒星病の発生ほ場率の推移

果樹全般（モモ、ナシ、リンゴ）

1　カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

(1)　予報内容

予想発生量	現　況		防除時期・防除の目安
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	園地への飛来を確認した時

(2)　予報の根拠

ア　予察灯(県内5か所、5月26日～6月25日合計)における誘殺数は15頭(平年101頭)で平年に比べ少なかった（－）。

イ　フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数(県内4か所､5月26日～6月25 日)は129頭（平年703頭）で平年に比べやや少なかった（－）。

ウ　スギ・ヒノキの毬果量調査（県下６か所、６月下旬調査）では、スギ、ヒノキとも着果程度は平年並みであった（±）。

エ　気象予報では、７月の気温、降水量ともほぼ平年並み（±）。

(3)　防除対策

＜防除判断＞

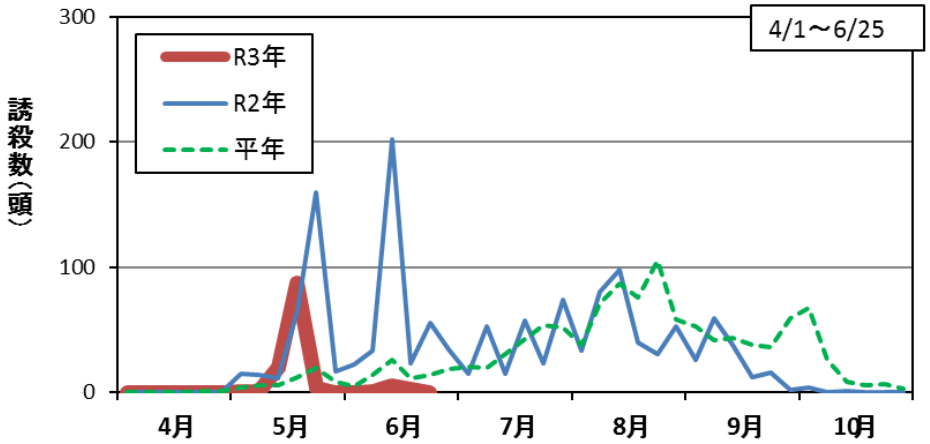
園地内への飛来を確認したらすぐに薬剤散布を行う。ライトトラップ※を利用すると飛来を確認しやすい。

※ 園地内ライトトラップによる防除判断マニュアルは山口県病害虫防除所ホームページ「主な病害虫の発生生態と防除対策資料」に掲載している。今後の発生予察情報に注意する。

＜防除のポイント＞

ア　有袋栽培であっても、果実肥大により果実が袋に接した時期に加害されるので注意する。

イ　カメムシ類に対する薬剤散布によって、ハダニが増殖する場合があるため、発生状況に注意する。



果樹カメムシ類の予察灯への誘殺数推移(県内4か所合計)

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
イネ	ツマグロヨコバイ	やや少	やや少	少	4.8	10.7	
	イチモンジセセリ（イネツトムシ）	やや少	少	少	0	6.3	防除適期：予想若齢幼虫最盛期（7月下旬）葉色が濃く軟弱な生育の場合被害が大きい。
	ニカメイガ	平年並	平年並（予察灯）	前年並（予察灯）	－	－	チョウ目害虫に効果のある長期持続型箱施用剤を利用している場合追加防除は必要ない。
カンキツ	そうか病	平年並	平年並	少	0	3.0	発病葉、枝は除去してほ場外に持ち出し、適切に処分する。

Ⅲ　参考

1　予報の見方

(1)　病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア　平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃　で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃　で２～３番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃　で２～３番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃　で標準的にみられた発生（上記４項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ　前年比

多	平年比の５段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃　前年の評価より少ない発生
前年並	〃　前年の評価と同等の発生（上記２項目を除くもの）

(2)　病害虫発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早　い	過去10年間の平均値より６日以上早い
遅　い	〃　より６日以上遅い
やや早い	〃　より３～５日早い
やや遅い	〃　より３～５日遅い
平年並	〃　を中心として前後２日以内

(3)　予報根拠における発生要因の評価基準

＋	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
－	発生を抑制する要因

2　気象予報

(1)　概要

１か月気象予報（７月１日福岡管区気象台発表）

予　　報	低　い（%） 少ない	平年並（%）	高　い（%） 多　い
気　　温	３０	３０	４０
降 水 量	３０	４０	３０
日照時間	３０	４０	３０

週ごとの気温傾向

予　　報	低 い（%）	平年並（%）	高 い（%）
１ 週 目	２０	５０	３０
２ 週 目	２０	５０	３０
３～４週目	３０	４０	３０